

# 「ト」の用法と中国語との対照

陳 美玲

## 要 旨

本稿では「ト」の用法と中国語との対応について日本語、中国語の小説とその訳文を資料として考察した。収集した例文からトと対応する中国語の言語形式を「時」系、「後」系、「就／便」系、(如果) + (的話) 系、「無対応」の五つの項目に分類した。その結果、中国語訳、日本語訳いずれも「無対応」(トと言語形式の対応のないもの)がもっとも高い比率を占めており、「就／便」系との対応がそれに次いだ。

「無対応」については、前後の文脈からの推測で言語形式の付加ができるかどうかによって、さらに「恣意的無対応」と「必然的無対応」に分けた。中国語訳も日本語訳も「必然的無対応」より「恣意的無対応」が多かった。トの「発見」、「同時」、「継起」の用法は「恣意的無対応」になりやすく、トの「慣用的」の用法は「必然的無対応」になる傾向が見られた。

また、中国語では「就／便」を用いるだけで時間、動作の継起、仮定のいずれも表すことができる。故に「就／便」系がトの仮定条件にも事実条件にも対応している。

【キーワード】 中国語の「就／便」、恣意的無対応、必然的無対応、「慣用的」のト

## 1. はじめに

日本語の条件表現には多様な形式が存在していることはすでに注目されており、さまざまな視点から考察されてきた。

中国語との対照の視点からは水野(1985)は日本語の接続表現に倣って、構文による中国語の条件句(条件複文)、仮定句(仮定複文)の分類を試みている。鄭(1993)は中国人日本語学習者の学習困難点をめぐって、日本語の条件文の仮定用法の文末モダリティ制約を中心に中国語との対照を論じた。以上のような条件表現全体の対照はもちろん必要であるが、個々の形式を取り出して考察することも欠かせないと思う。特にトはタラ、バ、ナラと比べると、仮定的な条件を表す性格が弱く、現実に観察された事実的な条件を表現するのが中心だと論じられてきた(益岡1997)。また「とき」

の表現との変換もできる点がトの大きな特徴だと考えられている（豊田 1977）。

トを中心に中国語との対照を考察したものに中島（1990）がある。トと対応する中国語の主な型を[一、0]型、[0、就]型、[一、就]型、[0、0]型（注 1）の四つに分け論じたが、実際にはどの型にも当てはまらない例がある。また[0、0]型というトと対応していない型に対して、単に前件が瞬間性述語か状態性述語かによるとする説明も十分ではないと考えられる。

本稿ではトの用法の分類とその名称は鈴木（1978）、豊田（1987）の分類を参考にし、「同時」、「継起」（注 2）、「発見」（注 3）、「仮定」に大別した。さらに田中（1992）の提案にも取り入れ、トの「慣用的」（注 4）の用法を付け加えておく。以上の五つの用法に関して、上述の先行研究で明白になっていないところを掘り下げ、トと中国語との対応しているもの、対応していないものの内容を明らかにしたい。

## 2. 中国語の条件表現

いわゆる中国語の条件表現は、『現代中国語文法総覧（下）』（1991：pp. 735-736）を参考にまとめると、次のようになる。

条件複文：正句（主節）が結果を表し、偏句（従属節）はその結果を実現させるのに必要な条件を提出する複文である。「只要」、「只有」が常用関連語句として用いられる。

仮定複文：偏句がある仮定を述べ、正句がそのような状況のもとで出現するであろう結果を説明する。常用の関連語句は「要（是）～（就）」、「如果～（就）」である。

しかし、実際には中国語の条件表現の接続は上述のように単純に分けられるものではない。正句と偏句の意味的關係は接続表現形式を用いなくても表すことができる。これは中国語の接続表現全体の特徴だと考えられる。

また連詞（接続詞）のほかに副詞や助詞なども接続関係を示すことができ、さらに「文節」と「文節」を並べるだけで、さまざまな接続関係が生じ、複文を作ることができるのである。例えば、仮定複文を作る代表的な連詞の一つ「如果」を例として見ると、副詞や助詞と次のように組み合わせることができる。

例：如果坐上快車的话，我早就到了。（快速だったらとつくに着いてしまいました。）

（例文も訳も参考文献 2 より。 下線は筆者）

ここで、「如果（連詞）」をA、「的話（助詞）」をB、「就（副詞）」をCとすると、以下のように八通りの接続の仕方が考えられる。

- (1) A+B+C 如果坐上快車的话，我早就到了。
- (2) A+B 如果坐上快车的话，我早到了。
- (3) A+C 如果坐上快車，我早就到了。
- (4) B+C 坐上快车的话，我早就到了。
- (5) A 如果坐上快車，我早到了。
- (6) B 坐上快车的话，我早到了。
- (7) C 坐上快車，我早就到了。
- (8) φ 坐上快車，我早到了。（注5）

(1) から (8) までの八文はニュアンスや使用場面の差はあるが、いずれも非文ではない。また、「如果」は同類の連詞「要是」、「假如」などとの入れ替えも可能である。話し言葉と書き言葉の違いはあるが、意味的にはほとんど同じである。

以上をまとめると、中国語の条件表現形式は日本語の条件表現形式（ト、タラ、バ、ナラ）と比べると、条件と仮定の用法だけしかなく、また接続を表す言語形式を必ずしも必要としないという大きな特徴がある。

### 3. 資料、方法及び分類

資料：

分析にあたり資料として用いたのは台湾の現代小説と日本の現代小説及びそれぞれの日本語訳版、中国語訳版である。表1で示す。

表1 日本語訳、中国語訳の資料

国別	タイトル	作者	訳者	本文中での略号
日本	ノルウェイの森（上）	村上春樹	林少華	ノル1
日本	ノルウェイの森（上）	村上春樹	頼明珠	ノル2
台湾	冬夜	白先勇	松永正義	冬
台湾	彩鳳的心願	曾心儀	林正子、中村 ふじゑ共訳	彩鳳
台湾	三脚馬	鄭清文	中村ふじゑ	馬

日本語の小説『ノルウェイの森（上）』については二つの違った訳版を使用したか、

それは同じ例文で中国語との対応にどのような異同が観察できるかを見るためである。

収集方法：

日本語の小説と中国語の小説の日本語版、それぞれからトが使用されている例文を拾い、それらの例文に相当する中国語訳文、中国語小説の原文も同様に抽出する。

収集した例文の数を地の文と会話文に分けて表2の通りである。

表2 分析資料数

項目 小説名	ト		合計
	地の文	会話文	
ノル1	154	52	206
ノル2	154	52	206
冬夜	31	7	38
彩鳳	32	9	41
馬	28	5	33
合計	399	125	524

分類：

トと対応する中国語の表現を524の収集例から以下の①～⑤の項目に分類した。

①「時」系

「とき」の意味である。「時」を単独に使う場合も「時候」になる場合もある。また、ほんの数例しかないが、「時節」、「時間裡」もある。

例1：しかし時計が十一時を指すと僕はさすがに不安になった。

但時針指到十一点時，我到底有点沈不住气了。（ノル1）

②「後」系

「～てから」「～たあと」の意味である。「後」、「之後」を一括して「後」系とする。

「之後」は「後」より書き言葉的な色彩が濃い。

例2：他坐下後，又禁不住用手去揉了一下。（冬）

彼は腰をおろすと、こらえきれずに足を強くもんだ。

③「就／便」系

「就／便」（注6）は副詞で時間を表すほかに複文を構成する機能も持っている。条件複文、仮定複文を示すだけではなく、因果、目的、継起などの接続関係を作ることでもできる。すなわち単独に用いることが可能であり、さまざまな接続関係を示す言語

形式(連詞:「因為」「為了」「要是」)と共起することもありうる。今回の収集例で「就」、「便」を単独に使う場合が多く見られたので一つの項目とした。また、「一～就」「一旦～就」も「就/便」系に入れた。

例3:バスが来ると犬たちは競い合うように吠えた。

汽車一到,狗便競相叫個不停。(ノル1)

巴士一來到,狗就競相吠了起來。(ノル2)

#### ④ (如果) + (的話) 系

この「如果」系は中国語の典型的な仮定表現である。「假如、萬一、要是、若是」などの関連詞と入れかえられる。「如果」、「的話」は各々省略は可能である。(如果) + (的話) 系には「就」が一緒に呼応して現れている例もあるが、これは(如果) + (的話) 系にカウントする。ただし、単独に用いられる「就」の場合は③で述べたように「就/便」系に入れることにする。

例4:屋上でやると三階の人から文句が来るんだ。

到屋頂去做的話三樓的人會抱怨。(ノル2)

#### ⑤ 無対応

本論で取り扱う無対応とは日本語小説にはトがあるが、中国語に訳されていないものか、または中国語小説には関連詞がないが、日本語訳にトが出ているものである。

例5:セーター自体は素敵なのだが、彼がそれを着て歩くとみんなが思わず吹き出した。

毛衣本身確很漂亮,但穿在他身上,大家都忍俊不禁。(ノル1)

例6:由高處望下看,看到山巒間有一塊比較平坦的地方,大概只有一、二十戶民家散落其間有的相隣,有的隔開一些距離。(馬)

見下ろすと、連なる山々の間に、一カ所、わりあい平坦なところがあつて、二十戸ほどの民家がかっついたり、離れたりして、散らばっていた。

## 4. 「ト」と中国語の対応

### 4.1 項目別の対応状況

3で挙げた項目に沿って中国語小説と日本語小説から取ったトの例文の分類をした結果は、次の表3、表4の通りである。また例文の訳語がそれぞれ全体に対して占めているパーセンテージは( )内に示す。

表 3 トの中国語訳の項目別の対応数及び比率

「時」系	「後」系	「就／便」系	(如果) + (的話)系	無対応
106 (26%)	53 (13%)	110 (27%)	21 (5%)	122 (29%)

表 4 日本語訳の中でトに訳された中国語の項目別の対応数及び比率

「時」系	「後」系	「就／便」系	(如果) + (的話)系	無対応
6 (5%)	2 (2%)	29 (26%)	2 (2%)	73 (65%)

#### 4.2 中国語訳と日本語訳それぞれの対応

対応している部分についてそれぞれを見ていく。

中国語訳の場合は「就／便」系が27%を占め、「時」系もほぼ同じ比率の26%になっている。

中国語の「就／便」は状況や動作が短時間で引き続いて現れたり起ったりする場合に用いる接続機能のある副詞である。しかも「就／便」は同一主体の制約がないためトの「同時」の用法も「継起」の用法とも対応できる。

しかし、トの「同時」の用法が時間的状况を表すこともあるので、中国語の「時(候)」とも対応している。すなわち「就／便」系はトの「同時」、「継起」の用法と対応している。「時」系はトの「同時」の用法と対応している。

トの「同時」の用法の場合は、中国語に訳すと解釈の違いによってずれが生じうる。

例7：僕が乗るとおばあさんたちは僕の顔と僕の手にした水仙の花を見比べた。

我一上车，老太婆们就衝着我的脸和我手中的水仙横看竖看。(ノル1)

我上车时欧巴桑们往我脸上和手上的水仙轮流著看。(ノル2)

例7のトをノル1の訳者は前件と後件の動作が続いて行ったと解釈し「一…就」に訳したが、ノル2の訳者は動作が発生したときの状態と解釈し、「時」に訳した。

このようなずれは「就／便」系の意味の広さとトの「同時」の用法の時間を示すときの近接から生じたものだと考えられる。中国語訳での理解のずれは206例中45例にあった。

「後」系はトの継起の用法に近いが、発見の意味も含んでいる。3で挙げた例2の「後」は継起で、下の例8の「後」は発見である。

例8：サングラスを外すと、緑はこの前見たときよりいくぶん眠そうな目をしていた。

太陽眼鏡摘下來後，綠的眼睛比上次我看到她時顯得有点困的樣子。(ノル2)

日本語訳の場合も「就／便」系であるものが無対応に次いで多い。この順序は中国語訳と同じである。中国語では「就／便」を用いるだけで時間も動作の継起も仮定も表すことができるので、トとの対応が多かったと考えられる。中国語訳も日本語訳も(如果) + (的話)系が少なかったのは、一つはトの仮定性が弱いため、もう一つは「就／便」系だけで中国語の仮定条件文も作られるためであると考えられる。

## 5. トと中国語の無対応についての考察

中国語訳にも日本語訳にも無対応が多いことが表3、表4からわかった。無対応は中国語訳では29%であるが、日本語訳では特に目立って65%にも達した。水谷(1990)での日英の対照と同じ傾向が出ている。つまり、日本語に訳すと、原文にない条件表現が付加される傾向が見られるのである。対応している部分よりも、無対応の部分、すなわち訳されていない部分において日本語、中国語の条件表現それぞれの特徴が現れると考えられる。

### 5.1 トの中国語訳において無対応の場合

以下は日本語にはトがあるが、中国語に訳されていない場合を取り上げる。

#### 5.1.1 二人の訳者とも中国語に訳していないト

従属節の部分に次の動詞があると、対応する中国語が現れない場合が多い。「～に比べると～。～てみると～。～と思うと～。～になると～。～てしまうと～。」

例9: でもそれに比べると僕の部屋は死体安置所のように清潔だった。

不過，相比之下，我的房間却乾淨得如同太平間。(ノル1)

但和那比起來，我的房間則像屍體放置所一般清潔。(ノル2)

例10: こちらで煮物の味見をしたかと思うと、何かをまな板の上で素早く刻み、冷蔵庫から何かを出して盛り付け、使い終わった鍋をさっと洗った。

一會在這邊品嚐煮菜的味道，一會又在菜板上飛快地切什麼東西。(ノル1)

在這邊才嚐過煮的東西的味道，又在砧板上快速運刀細切。(ノル2)

例9、10のようなトは固定的、慣用的であり、一種の定型句だといえるであろう。

また、「て形」と合わせて連続の動作や状態を表すときにもトに対応する中国語訳は現れない。主節の部分には過去形や状態を表す「ている」形が多い。例11においては動作の連続描写に関して二人の訳者とも接続形式を用いず、単に文を並べてつないで

いる。

例 11：それでも用意した小さなロウソクを二十本立て、マッチで火をつけ、カーテンを閉めて電気を消すと、なんとか誕生日らしくなった。

但我們還是豎起準備好的二十根小小的蠟燭，画火柴点燃，拉合窓帘・熄掉電燈，總算有了生日氣氛。（ノル1）

雖然如此還是把準備好的二十根小蠟燭插上，用火柴點上燭火，把窗簾拉上電燈熄滅・總算有生日的樣子。（ノル2）

これは2で述べた中国語では文節と文節を並べるだけで複文が生じることの典型的な例だと考えられる。

### 5.1.2 一人の訳者は訳しているが、もう一人の訳者は訳していない

片方の訳者だけがトを訳したのは206例中55例ある。例12がその一つである。

例 12：狭い空間に腰を下ろし、手すりにもたれかかると、ほんの少しだけ欠けた白い月が目の前に浮かんでいた。

我在狹窄的空間裡弓腰坐下，背靠欄杆，略微殘缺的一輪蒼白的月亮浮現…（ノル1）

我在狹小的空間坐下來，倚靠在扶手上時，只稍微缺了一角的白色月亮浮上…（ノル2）

55例いずれにも共通している点はトの「同時」または「継起」の用法が多いことである。このような場合は中国語の関連詞の付加は恣意的になりやすい。その結果、無対応となっている。

## 5.2 日本語訳においてトが現れる場合

中国語原文には関連詞がないが、日本語訳にトが現れる場合である。中国語の小説の場合、前件に「看來、看到、見到、覺得、想到、發現、說」などの知覚動詞があると、日本語に訳すとき、トが現れる傾向が見られる。

例 13：想到這裡，不禁眼鼻發酸。（彩鳳）

こう考えると、思わず目がしらがじんとなった。

また、「又、再、才、都」のような副詞や「了」のような助詞が前件か後件にあるとこれらの副詞や助詞が動作の継起を暗示するためか、中国語には関連詞がなくても日本語訳ではトが加わっている。

例 14：余教授蹲下身去，在玄關的矮櫃裡摸索了一陣，才拿出一双草拖鞋來，給吳柱国換上（冬）

余教授は身をかがめて玄關脇の小さな物入れを探り、スリッパをみつけだすと、



呉柱國に差し出した。

用法別に見ると前件後件同一主語による動作の継続や発見のニュアンスが含意されている文はトが加えられやすい。

### 5.3 無対応の分類及びその内訳

5.1、5.2で無対応について考察してきたが、その内容はすべてが同一ではない。無対応とされたものは次の二通りに分けられる。

ひとつは、トと対応する言語形式（中国語の関連詞）が外見的にはないものの、前後の文脈からの推測によって付加できるものである（ただし、多少不自然になる場合もある）。これを「恣意的無対応」と称する。例12はその例である。

もう一つは、トと対応する中国語の言語形式がなく、また付け加えることもできない場合である。これを「必然的無対応」と称する。例11のようなテ形と合わせて用いる動作の連続描写、例9、10のような「慣用的」の用法は「必然的無対応」の例である。

中国語訳の場合は122例のうち、「恣意的無対応」は75例で、「発見」の用法がその半分以上を占めている。「必然的無対応」は47例で、4例を除けばほかは全部「慣用的」のトである。日本語訳の場合は73例のうち、「恣意的無対応」は57例である。「継起」、「同時」の用法がほとんどである。「必然的無対応」は16例で、これもほとんどすべてが「慣用的」のトである。

## 6. 結論

今回の調査ではトは無対応に次いで、「就／便」系ともっとも対応しているが、そのほかに「時」系、「後」系、（如果）＋（的話）系とも対応していることが分かった。

「就／便」は条件表現のみに用いられるのではなく、目的、因果の接続関係にも用いられる。すなわちトを中国語訳すと「就／便」に訳されやすいが、「就／便」を日本語に訳すときトに訳されるとは限らないという違いがある。

また、無対応の用例は「恣意的無対応」と「必然的無対応」に分けられた。「恣意的無対応」は「必然的無対応」より多いという結果が出た。「恣意的無対応」が多いということから中国語の接続関係を示す言語形式の付加の恣意性が再確認できたと考えられる。

無対応がもっとも多いという調査結果を踏まえ、このような対照研究を行うにあたっては対応していない形式についても考察することの必要性が示唆された。

## 注

- (1) 中島（1990）での「と」と中国語の対応の分類パターンである。“0”は、前件または後件に条件接続形式のないゼロ標識のことである。
- (2) 鈴木（1978）はトの同時性と継起性について以下の通り述べた。トの同時性の用法はある動作・作用が行われる、それと同時にまたは時間的に近接して別の動作・作用が行われるという前後二つの動作・作用を結びつける機能である。また、前件と後件が同一主体による制約はない。同時性の用法は「夕方になると、ほんとうに、天気がだんだん悪くなりました。」のような例が挙げられている。トの時間的な継起の表現は過去の出来事であること、前件も後件も意志的な動作であること、前件と後件の主体が同一であることのいずれの条件が満たされた場合だけ成立するとしている。継起性の用法は「ふいに上着を着ると外へ駆け出してきました。」のような例が挙げられている。本稿は上述の論点に従い、トの「同時」の用法と「継起」の用法に分けた。
- (3) 「発見」の用法の定義は豊田（1987）に従う。発見の条件を表す文は、前件の語が人で後件は状態を表す形になっていて、前件の主語が物の存在、音、においなどを発見するというものである。次のような例が挙げられている。「玄関へ行くところ小包が置いてあった。」
- (4) 本稿のトの「慣用的」の用法は田中（1992）の提案に従う。田中は発話のどのような位置にありどのような意味的機能を持っているのかによって、条件表現のいくつかの慣用的類型を取り上げた。それは「と言うと」、「と思うと」、「てみると」、「となると」、「とすると」などである。
- (5) この文は、以下のように二重の意味に取れる。  
A：如果坐上快車、我早到了。（假定） B：因為坐上快車、我早到了。（原因）
- (8) の文は中国語母語話者7人中Aと理解する人が3人、Bと理解する人が1人、AもBも認める人が3人である。
- (6) 「就」と「便」は話し言葉と書き言葉の違いである。また、「就」は意味範囲が広く、「便」を使うところがすべて「就」に入れ換えられる。

## 参考文献

- (1) 鈴木忍 (1978) 『文法 I 助詞の諸問題 1』 教師用日本語教育ハンドブック③  
国際交流基金
- (2) 田中寛 (1992) 「条件表現と発話機能—慣用的側面をめぐって—」 『講座日本語教育 第27分冊』 早稲田大学日本語研究教育センター
- (3) 高橋弥守彦、姜林森ほか (1995) 『中国語虚詞類義語用例辞典』 白帝社
- (4) 鄭亨奎 (1993) 「条件の接続表現の研究—中国語話者の学習者の立場から—」 『日本語教育』 79号 日本語教育学会
- (5) 豊田豊子 (1977) 「「と」と「～とき(時)」」 『日本語教育』 33号 日本語教育学会
- (6) \_\_\_\_\_ (1987) 「第6章 条件」 『B-3 日本語の文法(3)』 日本語教師養成通信講座 アルク
- (7) 中島悦子 (1990) 「日本語と中国語の条件表現—「と」と“一”“就”を中心に—」 『日本語教育』 72号 日本語教育学会
- (8) 蓮沼昭子 (1993) 「「たら」と「と」の事実的用法をめぐって」 『日本語の条件表現』 益岡隆志編 くろしお出版
- (9) 益岡隆志 (1997) 「第4章 条件文の表現」 『複文』 くろしお出版
- (10) 水野義道 (1985) 「接続表現の日中対照」 『日本語教育』 56号 日本語教育学会
- (11) 水谷信子 (1990) 「接続表現と談話の展開—条件表現を中心として—」 『日本語シンポジウム「言語理論と日本語教育の相互活性化」 予稿集』 財団法人津田塾会
- (12) 劉月華ほか (1991) 『現代中国語文法総覧(下)』 相原茂監訳 くろしお出版

(明海大学大学院)

## A study of Japanese connective particle 'to' and its Chinese equivalents

CHEN Mei-Ling

This paper analyzes the use of Japanese connective particle 'to' and its equivalents in the Chinese language. The data were collected from Japanese and Chinese novels and the translations of them. The collected sentences have been classified into five categories according to the linguistic forms of the Chinese equivalents of 'to'. The largest single group is that of 'no-equivalent' followed by the 'jiu/bian' (就/便) type both in Japanese and Chinese translations.

The 'no-equivalent' category was then further divided into two groups according to whether the potential existed for the inclusion of the equivalent or not: 'arbitrary no-equivalent' and 'inevitable no-equivalent'. The latter is the larger group both in Japanese and Chinese translations. "Discovery 'to'" and "consecutive 'to'" tend to be 'arbitrary no-equivalent', while idiomatic 'to' is likely to be "inevitable no-equivalent".

In addition, the fact that Chinese 'jiu/bian' can be used to express time, consecutive actions and supposition makes it possible for the 'jiu/bian' type to correspond to 'to' used for suppositional condition, and truth condition.

(Graduate School, Meikai University)